

第5章神経症(その二)

1. 類型について

1 <不安神経症> 対象がない恐れ

恐怖神経症は対象がある。

急性と慢性

DSM / パニック障害
2 全般性不安障害

急性 不安発作 パニック障害とも言われる。

心臓神経症 激しい動悸、心臓が苦しくなり死ぬような恐怖

過喚起症候群 呼吸が苦しくなり、手足のしびれ、失神

治りやすいが、「予期不安」に悩む。

症状

精神症状 恐れ、緊張、心配、恐怖、不穏、焦燥、苦悶、興奮

身体症状 手指振戦、発汗、頻脈、心悸亢進、嘔気、嘔吐、下痢、尿意、呼吸困難、胸内苦悶

不安のかげに、要求水準の高い欲求が潜んでいる。

治療 抗不安薬、ベンゾジアゼピン系 抗不安作用

催眠作用

筋弛緩作用

抗けいれん作用

パニック セロトニン

抗うつ薬 SSRI パキシル

パニック障害 ⊕ によく効く。

抗不安薬 ソラナックス、カスミン、メキソリチン

2 <ヒステリー> 派手な症状呈する

ヒスとは子宮の意味

ヒステリー神経症、ヒステリー性格、ヒステリー症状の3つを指す場合がある。

ヒステリー性格

- ① 未熟性(幼稚っぽい)
- ② 感情易変性(感情が変わりやすい)
- ③ 自己顕示性(目立ちたがり屋)

73の74のヒステリー性格

ヒステリー症状

① 転換型 葛藤が抑圧され身体症状に転換

身体症状

運動症状 失立、失歩、失声、失神、けいれん発作

知覚症状 手袋型や靴下型の知覚障害、視覚障害

② 解離型 意識面、もうろう状態、遁走(蒸発) *ボンカイハクニシマウ*

記憶面、全生活史健忘

自我同一性 二重人格

の面に現れる。

特徴 (ヒステリー) - *転換型は心身の葛藤と葛藤*

疾病利得

疾病への逃避

満ち足りた無関心(症状に無関心、失神しているのに無関心)

症状の訴え方がオーバーであり、わざとらしく、他人が見ていないと症状が消失することもある。

3 <強迫神経症>

バカバカしい、不合理であるとわかっていても止めることが出来ない症状を強迫症状という。強迫症状が前面に立つ神経症。

強迫観念と強迫行為に大別

強迫観念 バカバカしいとわかっていてもある考えが浮かんでくる。

強迫行為 " 行為を繰り返さざるをえない。

洗淨強迫、確認強迫、就眠強迫等

徘徊, 癖

自己完結型と他者巻き込み型 (女性に多くより重症)

毎夜に見てもうかれと心をこら

強迫性格 良心的、几帳面、杓子定規、融通性・柔軟性の欠如、瑣事のこだわり、ケチ、自信欠乏、完全癖の強い性格。自己不確実性性格ともいえる。

抗うつ薬 SSRI トラゾロドン、ルボリン

4 <恐怖神経症>

対象が明らかな恐れ。

恐怖の対象の種類によって命名。 対人恐怖、高所恐怖、乗物恐怖、尖端恐怖、
疾病恐怖、学校恐怖、入社恐怖等。

対象に対する強迫神経症とも言える。

5 <抑うつ神経症>

元気のない抑うつ状態。何となくグズグズしているタイプ。

神経性うつ病と同義に用いられるがうつ病ではない。

抑うつ性の性格障害に近い。

●他罪的。神経症レベルでのうつ—心気症。 ●うつ病は自責的、日内変動がある。

6 <心気神経症>

身体のことをクヨクヨ気にする。

身体的愁訴 頭重、頭痛、めまい、眼精疲労、食欲不振、胸部圧迫感 etc.

●ドクターショッピング あの病院大丈夫かしら？

うつ病の心気妄想は、断定的で納得できない *あの病院はいい。理由が解不能*

7 <神経衰弱>

心身の不調にこだわる。易疲労性、注意集中困難、記憶力障害、不眠等を気にする。

受験ノイローゼの学生

神経衰弱状態と状態名で用いられる。

8 <離人神経症>

生き生きとした実感が感じられない。

分裂病にもある。離人感。

・自分の精神状態に対して(喜怒哀楽)

・ 身体

・外界に対して

ピンとこない感じ、ベールに包まれているような感じ。

「実感がないという感じを強く実感している状態」で苦痛感が強い。

2. 治療と予後

<治療>

① 環境調整 家族、学校、職場の問題を調整。

家族療法

② 精神療法 支持的

精神分析療法

行動療法 強迫神経症によい

③ 薬物療法

パニック障害 抗うつ薬 三環系 SSRI パキシル

強迫性障害 抗うつ薬 SSRI デプロメール、ルボックス

(明名) (常規)

依存性、習慣性について

ベンゾジアゼピン系 問題はない。むしろアルコールの方が強い。